

広島平和記念資料館

令和四年度第一回企画展

爆心直下の町

— 細工町・猿楽町 —



期間

2022年9月16日(金)～
2023年2月13日(月)

場所

広島平和記念資料館東館1階
企画展示室

入場無料





細工町の通りから島病院を望む
1943年(昭和18年)ごろ
細工町 島一秀氏提供



被爆した島病院のレンガ
広島大学理学部地学教室寄贈

通りに面した病院の前に立つ爆心地の説明板。現在も島内科医院として続く島病院の上空600メートルで原爆がさく裂したことを伝えています。そこから北西に160メートル離れた場所に立つ原爆ドーム。被爆当時、広島県産業奨励館と呼ばれ、ドーム部分の鉄柱と壁の一部をとどめる姿が、被爆の惨状を訴えています。島病院と広島県産業奨励館は、それぞれ細工町、猿楽町と呼ばれた町にありました。

企画展では、この2つの町に焦点をあて、被爆前の町の様相、原爆による破壊、再建に向けた歩みを当時の写真や遺品、住民の方の証言を交えて展示します。

【展示構成】被爆前の街並み／変わり果てた光景／再建の歩み



松本電機店の前で
1924年(大正13年)2月29日 猿楽町
細野澄子氏提供



黒川病院の自宅の客間で
1940年(昭和15年)ごろ 細工町
菅原桂子氏提供



伊勢屋商店の日棚(物干し場)で遊ぶ子どもたち
1944年(昭和19年)8月29日 猿楽町
伊勢榮一氏提供



島病院内での慰霊祭
島一秀氏提供



被災者の遺骨
1945年(昭和20年)10月1日～10日
爆心地から120m 猿楽町
林重男氏撮影



広島県産業奨励館で
亡くなった
池田重義さんの腕時計
爆心地から160m 猿楽町
池田コキク氏寄贈



黒川病院の焼け跡で見つかった
指の痕のついた薬瓶
爆心地から50m 細工町 菅原桂子氏寄贈



徐々に建ち始める家屋
1946年(昭和21年)～1947年(昭和22年)ごろ
猿楽町 ヘンショー博士撮影・遺族寄贈
放射線影響研究所所蔵



広島郵便局に勤務し亡くなった清水麗子さんの手紙
1945年(昭和20年)7月 清水貞之氏所蔵

【表紙の写真】

左上) 猿楽町通り
大正期～昭和初期ごろ 日比由夫氏提供

中) 爆心地一帯の廃墟
1945年(昭和20年)9月4日
山崎文男氏撮影 山崎和男氏提供

右下) 戦後に生まれた子どもを抱いて
1947年(昭和22年)8月25日～10月17日
細工町 菊池俊吉氏撮影 田子はるみ氏提供

